

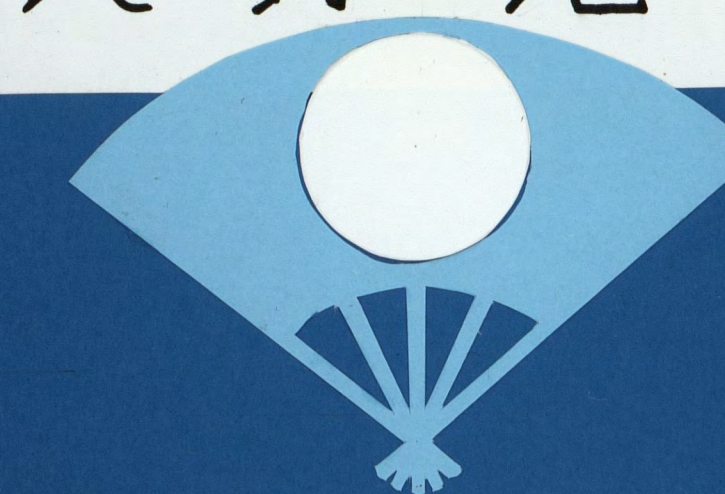
# 夏草や 兵どもが 夢の跡

立校 町学 里小 城桂  
 中央 地野 6年 大野

# 桂地区の埋もれた城館

## 調べた動機

3年前に家の近くにある「平治館」という出城を調べました。  
 すると茨城県北部に勢力を持っていた佐竹氏にたどりつきました。  
 常陸大田市だけでなく、自分の住んでいる城里町桂地区が佐竹氏と深い係りがあったことが分かりました。  
 そこで佐竹氏と桂地区がどのような関係にあったのかと人々に聞いてほしいと思い、桂地区にある他の城館跡を調べてみることにしました。



・歴史  
 藤原時房が築城した。  
 応永年間佐竹氏の今宮永義が山伏修業をした城ともいわれるが、永義は実際には応永ごろの人ではないので、あり得ないと思う。  
 ・現在  
 草や木におおわれてよく分からないが、土塁・空堀・馬場が残っている。



1 御前山城

・歴史  
 大山義道の長男義兼が築いた。  
 明応9(1500)年佐竹氏の内紛の時、本家義隆が逃れてきて、文亀3(1503)年に反乱軍に攻められ一度落城している。  
 ・現在  
 郭や堀の跡がはっきり残っており、比較的大きな城である。南側は地続きになっている。



3 孫根城

・歴史  
 佐竹氏が元弘2(1332)年に築き、徳高平治が居館とした。  
 天正年間、大山氏と小場石塚氏の合戦があり、この時平治館は大山方の出城となっている。  
 ・現在  
 土塁や堀などの跡が残っている。  
 畑や公園になっている。



5 平治館

・歴史  
 南北朝期、佐竹行義の6男景義が築城した。  
 正長元年の佐竹氏の内紛の時、高久義久は反乱軍に加勢し領地を失った。その後領地を返還され、10代200年続き杖田へ移った。  
 ・現在  
 八幡沢、馬場、館などの地名が残っていて、郭の形もはっきり分かる。



7 高久城

## 調べた方法

- ・桂村史、桂史紀要をもとにして城の歴史を調べた。
- ・城館跡に行き、それぞれの城館跡の遠景を撮影し、現在の様子を調べた。
- ・図書館で資料を探し、小字名を調べた。
- ・インターネットで桂地区の地形を調べた。



2 六沢館

・歴史  
 建武元(1336)年、野口城主の川野基基は那珂通辰に従い勝楽寺で自害した。孫の某は、佐竹義教に降り、六沢に居住した。  
 ・現在  
 北側の堀が水路として残っている。また土塁跡もある。



4 大山城

・歴史  
 鈴木高郷が城を築いた。  
 後南北朝期に佐竹義教の5男義孝が居城とし、大山氏を称して9代230年続いた。  
 ・現在  
 城跡にはホテルが建っている。周辺のやぶの中にも登り口があり、そこから行けば遺構を見られるとのことである。



6 粟館

・歴史  
 応永年間、佐竹義人の叔父義有が粟に住み粟館を称した。義有の子は小室氏を称した。義有一代の居館だ、たよである。  
 ・現在  
 小字に西堀・東堀という名はあるものの、縄張りが見えきりしていない。



8 下坏館

・歴史  
 南北朝期、佐竹義教の3男宗義が築いた。  
 室町期、宗義が石塚に移ったため家臣の桐原氏が入った。  
 ・現在  
 本郭の辺りは墓場になっているが、土塁・堀の跡が確認できる。

## 考察

この地図の中心を通る国道123号線は栃木県茂木町に通じています。そこは佐竹氏の隣国那須氏の領地でした。佐竹氏は那須氏と対立関係にあったため、大山城などは佐竹本家の太田城(常陸太田市)を守るため街道を監視する役目があったと考えられます。123号線沿いに城館が集中していることを考えると、桂地区は那須氏に対する重要な防衛地点のひとつであったことがうかがえます。

## 調べた感想

今回桂地区の城館を調べて、城里町にたどり着いた佐竹一族が進出し、太田城の防衛に務めていたことが分かりました。また城里町は佐竹氏にとって重要な地だということも分かりました。  
 次は範囲を広げて、太田城周辺の防衛地点全域を調べてみたいですね。

参考文献  
 中世常陸名家譜 上巻 石川豊 唯印書院  
 下巻 桂村史 通史編  
 御前山村郷土史  
 桂史紀要 第23号 桂史談会  
 第27号 HP: 常陸の古城のページ 茨城の城